



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

神の国を再現する家庭

「マザーテレサの言葉よ
り」

かで慈悲に満ちた完全な
ものだ。

現在、社会で次々に起こる事件の多くの原因は家庭にあると思う。世界は今、平和に飢え渴いてい
る。家庭が円満でなくて、
どうして世界の平和が有り得よう。それぞれの家庭が、平和と愛情と慈悲のよ
りどころとして機能すれば、世界平和はもう目前だ。
家庭は互いの中に神の存在を見いだすためのもので、神は家庭という形をとって、神の国を再現なさった。神が人間一人一人を愛して下さるように、私達は互いに慈しみあおう。神はいつもそばにいて私達を愛し、喜びや悲しみを分かちあい、生きる希望となつて下さる。神の私達に対する愛情は、無償で穏や

正しく祈り、汚れのない

人生を歩み、家族と仲良くし、幸福に満ちた家庭をつくる。周囲の人々にあなたの生き方を通して神の存在を感じとってもらえるよう心がけなさい。神の道を行くには思いやりが何より大事だ。思いやりの大切さに気づくほど、神に近づいていける。非常に慈悲深い神は、いつも自分よりも他人の事を優先してお考えになった。互いに思いやりの心を持って接すれば、家庭は神の国と同じくらい素晴らしい世界となる。
あなたは家族の不幸に気づいているだろうか。家族の中に孤独だったり、愛されていないと感じていたり、困っている人はいな

いだろつか。それはあなた
の配偶者あるいは子供か
もしれない。うっかり気づ
かずにいる事はないだろ
うか。

現代は忙しすぎて、他人
とゆっくり顔を見合わせ
たり、しゃべったり、交流
を楽しむ機会が少ない。そ
の結果浅くしか他人とつ
き合えない人が増えてい
る。世の中から優しさや親
切も消えてしまったのだ
ろつか。目まぐるしい社会
の歯車に乗せられながら、
心の中では皆、愛を渴望し
ているのに。

幸福とは神の喜びを体
現する事だ。話したり、歩
いたりしている時、幸福か
どうかは目を見ればすぐ
わかる。うれしさは隠して
おけない。いつも喜びで瞳
を輝かせている人は、神の
申し子といえよう。喜びに
は周囲を楽しくする力がある。笑顔のもたらす効用
は計り知れない。些細な事
にも誠意を持って接し、他

人に笑顔で接する美しい
生き方を心がけて欲しい。
家族全員がそろって静
かに祈る一時を共有すれ
ば、愛はきつと深まる。一
日ほんの五分だつていい。
そこから生きるパワーが
わいてくるはずだ。日々の
生活の中で、神と接するこ
の数分間を大事にして欲
しい。あなたの心が深い愛
で満たされるように。

愛の出発点である家庭。
あなたの家族が愛、平和、
喜び、調和という絆で結ば
れる事を祈つて。

「協力者通信

1989年版より」

平和運動に

たずさわる方々へ

平和の問題も究極的には、人間の生命を守ることです。教皇ヨハネ・パウロ二世は、広島での「平和アピール」の冒頭で、「戦争は人間の仕業です。戦争は死です。」と言われました。人間の生命の擁護に徹する時、そこに非暴力の世界、戦争のない世界が出現します。

教会は一貫した考えをもって両方の問題に関わり、生命保護の立場から、平和運動と人命擁護の運動の双方を同時に促進すべきであると訴えます。

日本カトリック司教団

1984年6月23日

インフォーメーション

ではなく、

フォーメーションを

若者を指導する教材として、コンドームを紹介するのはあまりに安直すぎる考えではないだろうか、コンドームが未熟な精神を成熟した精神へ導くものとは考えがたい。彼らに必要なのはインフォーメーションではなく、フォーメーションなのだ。フォーメーションとはコンドームの情報よりむしろずっと、世の親たちが子どもに禁欲の価値を教えるのに役立つ知識を与えてくれるものである。少女少女のエネルギーを親の助けで正しい方向に向けさせ、その場だけの欲望に盲目になりがちな少年に対して、少女達を「ノー」と言えるように教育し、そしてその指導する立場にある親に知識を授けるま

さに中核となってきたのがフォーメーションである。若者を指導する上で、貞潔が人間の一つの価値として認められた時、初めて大きな進歩が成し遂げられるであろう。

エイズを撲滅するためのコンドームにかわる根本的な解決策とは早すぎ無知で危険な性生活を送らない事である。アメリカの公衆衛生戦略家達は青少年が喫煙やドラッグに手を染める前に指導して事前に防ぐ事に成功しているという。では、彼らをエイズの危険性を伴う悪癖から遠ざけるためにはどうしたらいいだろう。十代前の子どもやティーンエイジャー達が何の知識もないのに自然に早熟な性行動に足を踏み入れるようになるなどというのは敗北者の言い訳めいた愚かしい考えである。別の角度から考えると、我々の抱える問題は、今日

の文明社会では貞潔はもはや若者同士の愛情にみられる特徴ではありえないという事だ。結婚の約束のない愛などはまがいものだ。そんな偽りの恋愛ごっこでは捨てる、捨てられるなどは日常茶飯事で、

傷つきながらもセックスパートナーが入れ替わり立ち替わりしている。この現象は青少年の自尊心の崩壊および自己認識の欠落を呼び起こす一因となっている。複数のセックスパートナーを保有する事はエイズへの最短距離をたどるだけでなく、遅かれ早かれ若者達の行き先にあらゆる限りの破壊的な社会悪をもたらす事だろう。人格の発育・成長の途絶、希望していなかった妊娠、肉体と精神に爪あとを残す中絶、性病感染、ドラッグ、アルコール、自殺、そして現在又将来の家族生活の希薄化と崩壊。

最も憂うべき事は子ども

もが欲しくなった時、若い頃のライフ・スタイルの報いとして不妊に悩む人々が出てきたとしたら、目もあてられない悲劇である。

若いうちに家族計画クリニクに押し掛けた人々に限って、後で不妊クリニクに通う場合が多い。若者は自分の体はただ一つしかない事、楽しみが終わった後ですぐ切り替えられる練習用の体などない事、一生涯を終えるまでそのただ一つの体を維持していく他ない事を痛感しておかねばならない。

ならば今なすべき事は、青少年を間違った自由な世界の毒牙から救い出す事である。コンドームは貞潔や一夫一婦主義を推奨する助けにはならない。いやむしろ、その逆である。コンドーム使用を主張する人は積極的な性活動に推奨シールを貼っているようなものだ。

AB-1990

結婚まで待つ意味

「貞潔を守る事は戦場で命を賭けるようなものだが、その見返りとして貴重な勲章が手に入る。勲章は高価なものだから、戦い抜く価値がある。」学識高い女性医学博士・ピラード博士の言葉である。彼女はなぜ多くの賢明な少女達がこの戦いを投げ捨ててまで自らの価値観に溺れてしまふのかを細かく分析している。

第一の理由は、彼女らの献身欲が強すぎるためである。「『える』という事の感覚の素晴らしさ。誰かに求められたいとか誰かに自らを捧げたいという欲求が彼女らの内にある。しかし彼女達は自分が何をどんなふうにと与えているかを気づかなければならぬ。おそらくは、少しだけ与えているつもりであま

りに多くを与えずにいては、まずだ。気持ちの優しい女の子にしてみれば、決意すべき時にどこまでやめればいいのか、又、どのようにやめるのかを決めるタイミングが難しいのだろう。

第二に心身をボーイフレンドに捧げた後の女の子の独占欲の強さについて述べている。ボーイフレンドを自分だけの者にしたい思いが強いほど、結局、最も失いたくない者を失ってしまう。彼女らがこの事を理解できないのかわりと不思議である。愛と所有とは同意義ではなく、他人の生活全てを自分のものに出来る者などいないの

第三に、男性も少女達もどのように抑制すればいいのか分からないほどの強い欲望を爆発させる要因について語っている。本人達も気づかないほどゆっくりと育つ男女間の

友情は、あまりに事が徐々に運んだ事から何の警戒もなく、いともあっさりと激しい盲目的な熱情に変わってしまう。性的な衝動は良心と分別を失わせてしまうものだ。

ある妊娠中の未婚の母親が自らの体験から性的欲望の抑えきれない高まりについて語ってくれた。

「私だけじゃなく、私の知っている女の子のほとんどは、いつだってほんの少しだけ冒険してみようという軽い気持ちにすぎなかったのに、気がついてみればバージンを失っていたというのが事実ね。最初は愛撫だけのつもりだった。でも何が起きているか気づいた時にはもう止められなくなっているの。そうやって一度許してしまうと、もう次からは断れなくなつて次々と。そして初めて何かに気がついた時というのは妊娠した時、というわけ。」

これは最近の新聞に載っていたある未婚の父の話である。

この苦渋に満ちた数カ月、ケン君は間違いなく禁断の愛の苦い本当の意味を知った。ジョアンと赤ん坊の事を考えると、婚前交渉が彼に与えたものの重さに気づかずにはいられなかった。「危険を冒す価値あるものじゃない。セックスなんて。」と彼は繰り返した。子供が生まれた時、ケン君は自ら願って、健やかにこの世に生まれ出たわが娘に会うため、病院に向いた。彼は一言も言わず赤ん坊を長い間じつと見ていたが、今にも泣き出しそうになり両手で顔を覆ってしまった。何とか自制しようと努めて、「俺の子以外は何の問題もなく、そのうち家に連れて帰られるんだろ」と言つた彼の声はふるえてやうと聞き取れるほどだった。「神様！俺が何をしたらと言

うんです！」

これらの若者達にとっては、一度燃え上がった欲望の火を消せないという学ぶに辛い経験をせねばならなかった。最初に性的行為を始めたその瞬間から、あなたはもはやバージンではないと思いなさい。貞潔を守っている限り、あなたには時と相手と状況を選択する自由があり、選べる限りの最も魂の触れ合った瞬間を結婚後あなた自身を誰かに捧げる至福の時として選択できるのである。

苦しくても貞潔は守るだけの価値がある。

E・M・デュバル博士

生死を賭けたゲーム

あなたがこの記事を読み終えるほんの五分間に、米国では25人の若者が性感染症にかかっている。中には、不妊やまさしく命にかかわるエイズなど、一生悲劇をもたらす病気もあります。ニューヨーク市セント・ルークス病院思春期相談室のA・T・コポール博士によると、ティーン

の80%が18才までに性体験をしている」という。又、最近の調査では同性愛者ばかりではなく異性間のセックスでもエイズになる率が高くなってきている事も解っています。メイン州教育監査所長を努める公認看護婦B・ドブス女史の報告によると、メイン州の某高校ではHIV検査で陽性と出た生徒が16人もいた。女史は又「セックスに積極的な生徒は年平

均4人と関係を持つ。つまり、その学校だけでも最低64人のエイズウイルス保持者がいると予測され、うち誰かが妊娠すれば保持者の数は更に増すと指摘している。原因は子どもたちを守りきれなかった大人のせいである。なぜ今まで貞潔がエイズを避ける唯一の方法であると気づかなかつたのか。我々は性の開放にやつきになったばかりに、子どもたちの命にまで危険が及んでしま

うとは、これではもう年長者としての示しが付かない。コンドームを使えば生死にかかわる病気を防ぐ事が出来る、子どもたちはそう教えられた。まるで、フィルターをつけてタバコを吸えば肺癌を防げると言っているようなものだ。コンドームが妊娠やエ

イズを防ぐ絶対的な物ではないと教える必要がある。G・ノーブル博士はコンドームの避妊率は70から90%にすぎないと語る。ましてやエイズウイルスは精子の四百五十分の一位の大きさなのだ。

それでもコンドームの不確実性を信じ難いと言うなら、手術に立ち会った看護婦の友人二人から聞いた、ラテックス(ゴムの樹液からできた素材)による失敗の話をしよう。二人は高品質ラテックス製手袋をはめていたが、手術後はずしてみると手に血がついていたと言う。ラテックスもエイズの完全防止策とはなり得ない事が判明した。

使用の意識ははるかに低く(最近のニューヨークウィーク誌に、セックス積極派の女子大生で常時コンドームを使用しているのは20%以下にすぎないという記事があつた)ゆえに危険度も増大する。我々が「安全なセックス」と呼んでいるものの実態はこうなのだ。

フロリダの調査とニューヨークの世論調査をまとめると、HIV陽性の相手と「安全なセックス」(コンドーム使用)をしたティーン

の3割が感染の危険があると言え

る。まるでロシアンルーレットのようだが、当たる(死ぬ)確立は更に高い。六つの弾倉のどこに弾があるかわからないのと同じで、無鉄砲なティーンの人(もしくはその恋人の人)がウイルス保有者とは知らずに関係してしまつ。彼らに安全なロシアンルーレットをしるとは言えない。そんな物はありません。弾倉が12だろ

社会は無関心だし、学校も何もしてくれない。外の世界は若者に我慢する事を教えていない。あとさき顧みず今の事だけ考えて生きるための情報に溺れている彼らも、実際は真の愛を欲している。尊敬と友情が不可欠である愛を。だがテレビや映画や音楽は足る事を知らない欲望や性欲ばかりかきたてる。

子どもたちに健全な価値観、自尊心、忍耐や尊敬の心を教えるためには、まず我々の生活を見直し改善する必要があるのではないだろうか。思考力なく本能だけにしたがう野獣を生み育てるのが仕事ではない。我々の子どもは、理性を持ち知的に判断出来る、ほかならぬ人間なのだ。家庭も学校も、当然その様に教育すべきだ。

ン・マーク夫妻博士は医学通信の中で、性開放の指導者が起訴されるケースが急増している。快樂自由、健康を約束した彼らが、結果として、悲劇、病氣、死をもたらす事になった」と書いています。

ジャーナリストのH・B・ゴウも次のような見解を述べている。「性教育の授業を見ても、避妊について説明を受けなかったティーンより、説明を受けたティーンの方がセックスに積極的である」いずれセックスするだろうから予め説明しておいた方が良からうと子どもに話すのはかえって問題があるようだ。一九七二年以来、15才から19才までの妊娠は87%も増加している。性病も同様で、フィラデルフィアでは85年から90年の五年間に梅毒が三百七十九件から六千五百五十八件に増加している。

セラー、セラピストであるT・クレンショー博士は87年のEJL全国学会で次のように語った。「今年6月19日にハイデルベルグで行われた世界性科学学会で八百人の学者達を前にエイズに関する講演をした時の事です。出席者の大半は患者や生徒にコンドームをすすめると思えました。そこで私は尋ねました。もし、あなたの恋人がエイズウイルス保有者であると知ってもコンドームを頼りにセックスしますかと。誰一人手を挙げませんでした。あなた自身が実行できない事を患者にすすめるには無責任ですよ。要するに、健康な身体と致死病との間に風船(コンドーム)を置くのは危険だという事です。」

教育委員会は我々の抗議に耳をかしてほしい。これは深刻な問題である。アレクサンドラとヴァーノ

エイズ予防に「安全なセックス」が無効である事は、92年5月24日のワシントンポスト誌からも明らかである。「80年代のエイズ予防の風潮により、総体的コンドーム使用率は25%も増加した。だが、公衆衛生の専門家によれば、呼びかけに応じてくれたのは感染の可能性が極めて低い人が中心だった」と言う。

ティーンにとっては、コンドーム推奨の気運がおさまれば、逆に貞節への関心が目覚めるのではないか。宅配方式の雑誌「家族計画の展望」の90年1・2月号では、16才以下の少女千人に行ったアンケートで、84%が男の子を傷つけずにセックスを断る方法を学校で教えて欲しいと望んでいる。

若者は本当に安全に生きる方法を知りたがっている。子どもには麻薬は駄目だと教育しておきながら、注射針が手に入れば大

ティーンにとって、コンドームを頼りにセックスしますかと。誰一人手を挙げませんでした。あなた自身が実行できない事を患者にすすめるには無責任ですよ。要するに、健康な身体と致死病との間に風船(コンドーム)を置くのは危険だという事です。」

性教育の専門家達は今、自分達の位置づけと、安全なセックスとはどうあるべきか検討中だ。米国性教育学会の元会長で、カウ

ティーンにとって、コンドームを頼りにセックスしますかと。誰一人手を挙げませんでした。あなた自身が実行できない事を患者にすすめるには無責任ですよ。要するに、健康な身体と致死病との間に風船(コンドーム)を置くのは危険だという事です。」

若者を健全な道に引き戻さずコンドームルーレットを続けさせたなら、今に我々の目の前で次々に彼らが滅びていくに違いない。

サンティ・ブラマ